

ねん がつ
2023年3月

れきし
歴史 — No. 26

けんぱくものしりシート

し ころ ぎん
紙 腔 琴



これは
なに
何かな？



ケンくん

かいせついん
解説員



たからぼこ
宝箱みたいな
かたち
形だね！

ハクちゃん



てまわ しき こがた いっしゆ し ころ ぎん
これは手回し式の小型オルガンの一種で「紙腔琴」というの。

めいじ ねん と だ きんどう ひと かいがい てまわ しき かんが
1884(明治17)年に、戸田欽堂という人が海外の手回し式オルガンから考えたものだと
されていて、ハンドルを回すと音楽を再生することができるのよ。



し ころ ぎん
ちなみに「紙腔琴」というのは“ピアノ”や“リコーダー”など楽器の種類

い み なまえ げんざいがっきてん し ぎんざじゅうじや かいしゃ
を意味する名前ではなく、現在楽器店として知られている「銀座十字屋」という会社
の しょうひんめい
商品名なの。だれでも簡単に使える紙腔琴は、お家や学校など様々な場所で使われ
るようになり、他の会社からも「紙巧琴」や「紙調琴」など、名前や仕組みがよく似
たものが売られるようになるくらい、人気の しょうひん
商品だったのよ。

ぼく、はじめてみた。

いま
今はあまり使われていないのかな？



めいじ じ だい
明治時代(1868~1912年)の後半ころ、さらに便利な音楽再生機「蓄音機」が日本
でもひろ
でも広まるにつれて、だんだん使われなくなってしまったの。





ハンドルを回すだけで音楽が流れるのはどうして？



ハンドル(①)を回すことで共鳴箱(②)の中の「ふいご」が動き、空気の流れを生み出します。同時に、ふた(③)と共鳴箱の間にはさんだ譜箋(④)が左から右へ移動していきます。

②共鳴箱
中に「ふいご」(空気の流れを生み出す道具)が入っている。



④譜箋
紙腔琴で音楽を奏でるために必要な、四角い穴があいた楽譜。ロール譜や活奏曲譜などとも呼ばれる。

①ハンドル

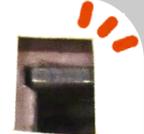
展示室にある紙腔琴のふたをひらくと、共鳴箱の上の面に14個の小さな穴がならんでいるのがわかります。穴には、金属で作られた「リード」という部品がついて



リード

いて、穴に空気が通ることによってこの「リード」がふるえて音が鳴ります。14個の穴にはそれぞれちがう高さの音が鳴るリードがついているので、譜箋が移動して空気が通る穴が変わっていくのにあわせて音も変わり、音楽が奏でられます。

空気が通ることができるのは、共鳴箱と譜箋の穴がちょうど重なったところだけなの。



譜箋にあいている穴の場所で「音の高さ」が、穴の長さで「音の長さ」が変わるのよ。



参考 『紙腔琴の歴史』『お茶の水音楽論集 特別号 徳丸吉彦先生古稀記念論文集』金子敦子 2006年/
『製造元祖 横浜風琴洋琴ものがたり』横浜市歴史博物館・横浜開港資料館 2004年 他

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モチちゃん



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>